

日本発ドイツ便り：猛暑の過ごし方

日本に負けず、今年はドイツも猛暑です。

ドイツでは夏の間朝の7時くらいから夜の9時くらいまで太陽が出ています。

同じく毎日30℃を越す気温ですが、日本に比べると、湿度が低いので、じりじり太陽に焼かれる感じはありますが、ちょっと影に入ると過ごしやすいです。また、人が歩くところは地面がアスファルトではなく、石畳のことが多いので、地面からの熱も少ないような気がします。

ドイツでは、クーラーのある家、というのはまだ珍しいので、窓を開けまくって、扇風機。くらいが一般的な風景でしょうか。（もともと30℃なんて気温はドイツでは本当に珍しく、1年に数回あるくらいだったのが、今年は久々に連日30℃超えの暑い夏…。温暖化の影響でしょうか？）

もともと「暑い夏」は歓迎される傾向にあるので、猛暑もある程度は歓迎されているようです。

なんたって、「降り注ぐ太陽」が憧れですから、これなら今年はドイツでもヴァカンスができる！と今年の夏はドイツの海辺や山で休暇を取る人も多いみたいです。（ドイツ人曰く「太陽がなければ休暇じゃない！」）

夏と言えば、その①「太陽と水辺」

「太陽教？」と思うほど、太陽の光（と肌を焼くこと）が大好きな人達なので、水のあるところにはすぐ代用ビーチを作ってしまいます。



これはベルリン中央駅のすぐ近く、シュプレー川のほとり。Traumstrand（トラウム・シュトランド：直訳すると「夢のビーチ」）この、あまりに「そのまんま」なネーミングが、すごくドイツらしいです。自由の女神が、なんでこんなところにあるのか、突っ込まないであげてください。☺



↑ Traumstrand には、こんな感じで、川に沿って、パラソルとビーチ用の椅子がたくさん。
朝早かった（8時くらい？）ので、人が映っていませんが、夕方には一杯になっていました。



同じく中央駅付近。水辺で冷たいドリンク片手に、太陽の光を浴びながら読書。ってところでしょうか。
ここも夕方の時間帯には「よくもまあこんなに人が！」というくらい一杯になっていました。



水。といえば、街の色んなところにある噴水。入っちゃう人、縁に腰掛けて足だけ浸けちゃう人続出。



だから、噴水の周りにはいつも人でいっぱいです。それにしても皆軽装ですね～。

夏と言えば、その②「Eis（アイス：アイスクリーム）」

この暑さですもん。最低1日2玉必要です。☺ドイツのアイスクリームは安くておいしいです。アイス屋さんで、1玉60セントから1ユーロくらい。この日はラズベリーとチョコレートを。



最近のお気に入りには Haselnuss（ハーゼルヌス：ヘーゼルナッツです。）

そして夏の飲み物、Eiskafee（アイスカフェー：アイスコーヒー）と Eisschokolade（アイスショコラーデ：アイスチョコレート）を忘れてはいけません。



久々の Eisschokolade！アイスクリームの上に（チョコかヴァニラ）ホットチョコレートを注ぎ、砂糖をいれないホイップクリームをたっぷり。夏だけのメニューです。パラソルの下で、冷えたチョコレートを飲んで、アイスクリームを食べていると、太陽の熱で火照った体がすーっと冷えてきます。☺同じく、ヴァニラアイスクリームの上にコーヒーを注いだものが、ドイツのアイスコーヒー。日本の感覚で「アイスコーヒー」と注文したら、出てきたものを見てビックリすること間違いありません。周りのテーブル（もちろん外です）では家族連れを始め、老若男女問わず、色んな人が皆でアイスクリームを食べています。果物たっぷり。アイスもたっぷり、大人向けにはリキュールやシャンパンを使ったアイスクリームのメニューだってあります。いずれも結構いいお値段（5-15ユーロくらい？）まあ日本でパフェとかケーキを食べに行くのと同じ感覚でしょうか？（多分同じ値段で分量は倍以上あると思います）

ドイツのちびっこに人気のアイスのメニューはこれ！（メニューの写真です）



Spaghettieis（シュパゲッティー・アイス：その名の通り、アイスクリームのスパゲッティー）要はアイスクリームをスパゲッティー状にしたものに、ソースに見立てたチョコやフルーツソースや果物と一緒に食べる。というものです。以前から、なにもアイスをスパゲッティー状にすることはないやろう？と思ってはいたのですが、大人気。そのうち一度試してみようと思います。できればどうやって製造するのか、その調理過程を見せてもらいたいと思います（企業秘密かもしれません）。☺でも結構美味しそうかなあ？

寝苦しい夜には、一軒家には必ず、と言っていいほどある Keller（ケラー：地下室）が活躍。ケラーといってもけっこう広くて、地上階と同じくらいの広さがあるところも多いです。洗濯機はケラーにあることが多いです。他には食料庫や物置など。地上よりヒンヤリしているので、夏はケラーに簡易ベッドを持ち込んで、ここで寝る。という人も多いです。実際、陽が沈めば夜は結構涼しいので、日本の「熱帯夜」程の暑さはないと思います。地下室がない人は窓を開けて寝ます。ドイツの窓は上の方だけ、斜めにちょこっと開けることができるので、開けたままでも安心です。蚊に悩まされることもないので、これでクーラーなしでも何とかなるんですよ。（もちろん寝苦しい夜もありますが…）

ニュースで「熱中症に気をつけましょう」と呼びかけていました。こまめに水分補給を！水分はビールやジュースより、ミネラルウォーターが良いです。と言っていたのがちょっとおもしろかったです。街の中では2リットルのミネラルウォーターを持ち歩いている人がたくさん見かけました。（重いので、私は500ミリの小さなペットボトル持参。）

となると、ドリンク片手にパラソルの下で読書しながら日光浴というのは、ある意味正解ですね。



大賑わいのジェラート屋さん。日本の猛暑も楽しみ方があるかもしれませんね。☺